群教セ	G11 - 02
	平16.218集

学校行事を活用したキャリア教育導入の工夫
── 系統的なキャリア指導案の作成と実践を通して ──

長期研修員　　石渕　裕則

《研究の概要》

本研究は、生徒に職業観・勤労観を育むためのキャリア教育を学校に導入するにあたり、学校行事を活用しようというものである。系統的なキャリア指導案に基づいて学校行事を実施することにより、キャリア諸能力の育成を図ることができることを明らかにした。具体的には、目指すキャリア諸能力を育成するために、学校行事の事前・事後に道徳・学活を盛り込み、キャリア教育の円滑な導入を図ろうとした研究である。

【キーワード：進路指導、キャリア教育、キャリア諸能力、学校行事、キャリア指導案】

Ⅰ　主題設定の理由

現在、不登校や中途退学者、フリーター（アルバイト、パート）やニート（NEET：Not in Employment，Education or Training の略：職に就いていず、学校機関に所属もしていず、そして就労に向けた具体的な動きをしていない若者）の増加などが大きな社会問題になっており、生徒の職業観や勤労観をいかに育むかが課題となっている。このようなことから「生徒が自らの個性を生かし、主体的に進路選択する能力を育むことや、生き方を考えさせ、望ましい勤労観・職業観を育成すること」が進路指導に求められている。近年では、中学校や高校だけでなく、小学校から各発達段階で必要とされている資質・能力を明確にし、個に応じた教育を継続的に実施していくことが重要であると考えられはじめ、「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」であるキャリア教育の必要性が叫ばれはじめている。

学校においては、平成14年度から週５日制がスタートして３年が過ぎ、多くの学校では授業時数確保のために学校行事の精選や見直しを行ったり、長期休業日を減らしたりするなどの工夫を行って対応している。しかし、行事の精選とはいえ、行事を削減することに主眼がおかれ、残念ながらあまり行事内容等の工夫が図られていないという現状がみられる。そこで、学校行事のもつ意義やねらいをもう一度確認し、内容の工夫を図ることが課題であると考える。

従来の進路指導では、生徒に職業観・勤労観を育成させ、これからの社会を生きていくために必要な力を身に付けるには時間的にも計画的にも厳しい現状がある。年間指導計画、題材系統図等はできているが、ねらい通りに生徒を育成することができていないのは拒めない。また、進路学習においても１授業や１行事は充実しているが、系統立てた指導が計画的に実施できず、その場限りの指導が多く、中学校や高等学校における進路指導では出口指導になりがちであった。このような現状の課題を解決するためには、発達段階に応じた必要な能力や態度を確実に身に付け、早い段階からこの能力や態度を積み重ねていくことが大切であると考えた。このことから本研究では、キャリア諸能力を育成する場面を学校行事に置き、キャリア指導案に沿って系統的な指導を実施することにより目指す諸能力を育成することができると考えた。

以上を踏まえ、作成したキャリア指導案に基づいて学校行事を実施することにより、キャリア諸能力の育成が図れることを明らかにするとともに、学校行事を活用する方法により、円滑にキャリア教育を学校教育へ導入することができると考え、本主題を設定した。

Ⅱ　研究のねらい

キャリア諸能力育成のために、学校行事の前後に、道徳・学活を盛り込んだキャリア指導案を作成・実施すれば、キャリア教育を効果的に学校教育に導入することができることを明らかにする。

Ⅲ　研究の見通し

1　キャリア教育の目指すキャリア諸能力を育成するにあたり、学校行事を活用すれば、学校教育におけるキャリア教育の導入を図ることができるであろう。　（見通し１）

2　キャリア指導案を作成し、道徳・学活を盛り込んで学校行事を実施すれば、キャリア諸能力を効果的に育成することができるであろう。　（見通し２）

Ⅳ　研究の内容

1　本研究におけるキャリア教育の概要

「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」（文部科学省2004年）の中で、キャリア教育が求められる背景、意義や内容、基本方針と推進方策等が示されている。本研究ではそれを受け、キャリア教育を次のようにとらえた。

キャリアを「児童・生徒が発達段階に応じて育てていくべき資質や能力を築いていく過程」、キャリア発達を「キャリアが児童・生徒の発達段階やその発達課題の達成と深くかかわりながら段階を追って発達していくこと」とした。そこでこれらのことを踏まえキャリア教育を「児童・生徒のキャリア発達を支援しそれぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」ととらえた。

進路指導とキャリア教育については定義・概念として大きな差異はなく、キャリア教育の中核が進路指導の取組と考えることができる。このことからキャリア教育は、児童・生徒の発達を計画的・系統的に育成しようとすることが弱かった点や指導計画における各活動との関連性や系統性等が薄いこと、さらには児童・生徒の意識の変容や能力・態度の育成に今までの指導が十分に結びついていないといった進路指導の課題を抜本的に改革していくために導入された教育である。今後必要なことは、表１のように、キャリア教育導入のための３点を重視していくことが、これから学校教育にキャリア教育を導入する上で大切なことと考える。

表１　キャリア教育導入のための重点項目

キャリア教育は、「今日の社会の変化、児童生徒の生き方、進路を取り巻く環境が激変する中で、学校は児童生徒の生き方、進路にかかわる教育、指導・援助をどのような視点から見直し、何を重視して充実・改善を図るべきか」という提言であり、「児童生徒一人一人の勤労観・職業観を育てる教育」である。

キャリア教育を進めていくためには、次の３点を重視していくことが大切である。

（１）児童生徒が、教科教育をはじめとして学校教育で身に付けた様々な能力を、自己の現在及び将来の選択や生き方に生かしていくこと。

（２）児童生徒がそれぞれの発達段階に応じ、自己と働くこととを適切に関係付け、各発達段階における発達課題を達成できるよう、意図的、継続的な取り組みを展開していくこと。

（３）教科、道徳、特別活動及び総合的な学習の時間や活動を体系的な取組が展開できるように教育課程を編成すること。

（教育委員会月報 16.6 から）

2　キャリア指導案について

すべての教育活動は、ねらいや教育効果の有効性を十分に検討・協議して行われており、中でも、体験活動が多く取り入れられている学校行事に期待するものは大きい。しかし、現実には行事の運営に重点が置かれ、円滑に実施することに気を取られてしまいがちである。さらに、学校行事のもつ教育効果を期待しているにもかかわらず、明確なねらいをもって計画的に取り

表2　中学校で育成したいキャリア諸能力

進路発達にかかわる諸能力		具体的な能力・態度
領域	諸能力	（行事における進路の視点：キャリア諸能力）
人間関係形成能力Ⅰ	（Ⅰ－１）自他の理解能力	①自分のよさや個性が分かり、他者のよさや感情を理解し、尊重する。
	（Ⅰ－２）コミュニケーション能力	①他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築くこうとする。 ②人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルの基礎を習得する。 ③ﾘｰﾀﾞｰとﾌｫﾛｱｰの立場を理解し、チームを組んで互いに支え合いながら仕事をする。
情報活用能力Ⅱ	（Ⅱ－１）情報収集・探索能力	①産業・経済等の変化に伴う職業や仕事の変化のあらましを理解する。 ②上級学校・学科等の種類や特徴及び職業に求められる資格や学習歴の概略が分かる。 ③生き方や進路に関する情報を、様々なメディアを通して調査・収集・整理し活用する。
	（Ⅱ－２）職業理解能力	①将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解する。 ②体験等を通して、勤労の意義や働く人々の様々な思いが分かる。
将来設計能力Ⅲ	（Ⅲ－１）役割把握・認識能力	①自分の役割やその進め方、よりよい集団のための役割分担やその方法等が分かる。 ②日常の生活や学習と将来の生き方との関係を理解する。 ③様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える。
	（Ⅲ－２）計画実行能力	①将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高める。 ②進路計画を立てる意義や方法を理解し、自分の目指すべき将来を暫定的に計画する。 ③将来の進路希望に基づいて当面の目標を立て、その達成に向けて努力する。
意志決定能力Ⅳ	（Ⅳ－１）選択能力	①自己の個性や興味・関心等に基づいて、よりよい選択をしようとする。 ②選択の意味や判断・決定の過程、結果には責任が伴うことなどを理解する。
	（Ⅳ－２）課題解決能力	①よりよい生活や学習、進路や生き方等を目指して自ら課題を見出していくことの大切さを理解する。 ②課題に積極的に取り組み、主体的に解決していこうとする。

（国立教育政策研究所：改）

組み、前回の反省・評価を踏まえて実践している学校は少ない。

そこで、教育効果の大きい学校行事を活用し、学校教育にキャリア教育を導入しようと考えた。そして、学校行事に今までの行事要項とは異なる指導案（この指導案を以後「キャリア指導案」という）を整備することで、目指すキャリア諸能力が育成でき、キャリア教育の導入がスムーズになるのではないかと考えた。

キャリア指導案の形式は、教科や道徳、特別活動等を実施するときに作成している学習指導案と基本的に変わりはないが、キャリア諸能力の育成に向け、指導に対する支援や配慮事項、事前や事後の学習に道徳と学活を盛り込んだところが大きく異なる点である。また、キャリアは学校教育全てを通して形成することが重要であることを考えると、学校行事だけでなく、その前後の活動における系統的な指導が大切であると考え、キャリア諸能力育成プログラムの作成を考えた。このことを通して、児童・生徒の発達段階を考慮した発達課題が明確になるとともに、解決のための対策を考えるようになり教員の意識を高めることに効果を発揮することができる。さらに、このキャリア指導案により、キャリア諸能力をスムーズに育成することができるであろうと考える。このように、キャリア諸能力の育成に向け学校行事を効果的に活用するためには、系統的な指導計画に基づいてキャリア指導案を作成し、実施することが重要だと考えた。そして、今までになかったこのキャリア指導案を学校教育に導入するために、取り入れるよさを提言するとともに、理解できるものにしていこうと考えている。

3　キャリア教育導入の実践

キャリア教育は各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等、学校教育の全ての学習や

活動の中に、子ども一人一人のキャリア発達を支援するという視点を盛り込んだ教育活動を推し進めることである。また、キャリア教育は、教科の学習で学んだ成果等を様々な体験活動や話し合い活動等を通して深化・発展・統合させたり、その成果を教科の学習に還元し、反映させたりするねらいももっている。そのため、学校の全ての学習活動はキャリア教育を進める上で、直接的かつ中核的な取組として重要な役割を担うものであると考えられることから改善・充実が求められている。このことから、特に、特別活動の中で学校行事を活用してキャリア教育の導入を図ろうと考えたが、単に行事を実施するに留まらず、道徳や学活を系統的に盛り込んだキャリア指導案をもとに実施することで、より効果的な取組になるのではないかと考えた。

そこで本研究では、まず「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み」を基に、生徒に育みたい能力や態度をそれぞれの行事のねらいとして位置づけ、どの行事で、どのねらいを、どのように身に付けさせるかを念頭に置いて行事の選定をした。なお、必ずしもこの行事でなくてはならないという固定的な考え方ではなく、それぞれの学校が行事の特性を生かして、柔軟に対応できることを前提に、各学校によって様々なアレンジが施されることを想定している。

次に、系統的なキャリア指導案を考えた。従来の学校行事は、各学校の伝統的な要項にそって実施されていることが多く、これまでも各行事のねらいを達成するために、他教科や領域、総合的な学習の時間等と一定の連携を図りながら実施されてきた。そこで、一連の活動に系統性を持たせ、指導案という形にまとめ、「道徳・学活」「行事」「学活・道徳」という３部構成に系統化することで、ねらいとするキャリア諸能力が育成しやすくなると考えた。

本研究の実践において、現在の課題を解決するために、また、キャリアを形成していくために必要な能力は、発達段階を考え、育成すべき能力を人間関係調整能力の中のコミュニケーション能力と考えた。そこで、みんなで力を合わせ、お互いの心を一つにしていこうと取り組んでいく合唱コンクールを活用することで、コミュニケーション能力が育成できることに焦点を絞っていきたいと考えた。ついては、キャリア指導案に基づいて行事を実施すれば、行事を系統的・計画的に実施することができ、キャリア諸能力を育成しやすくなることを検証したい。

Ⅴ　研究構想図

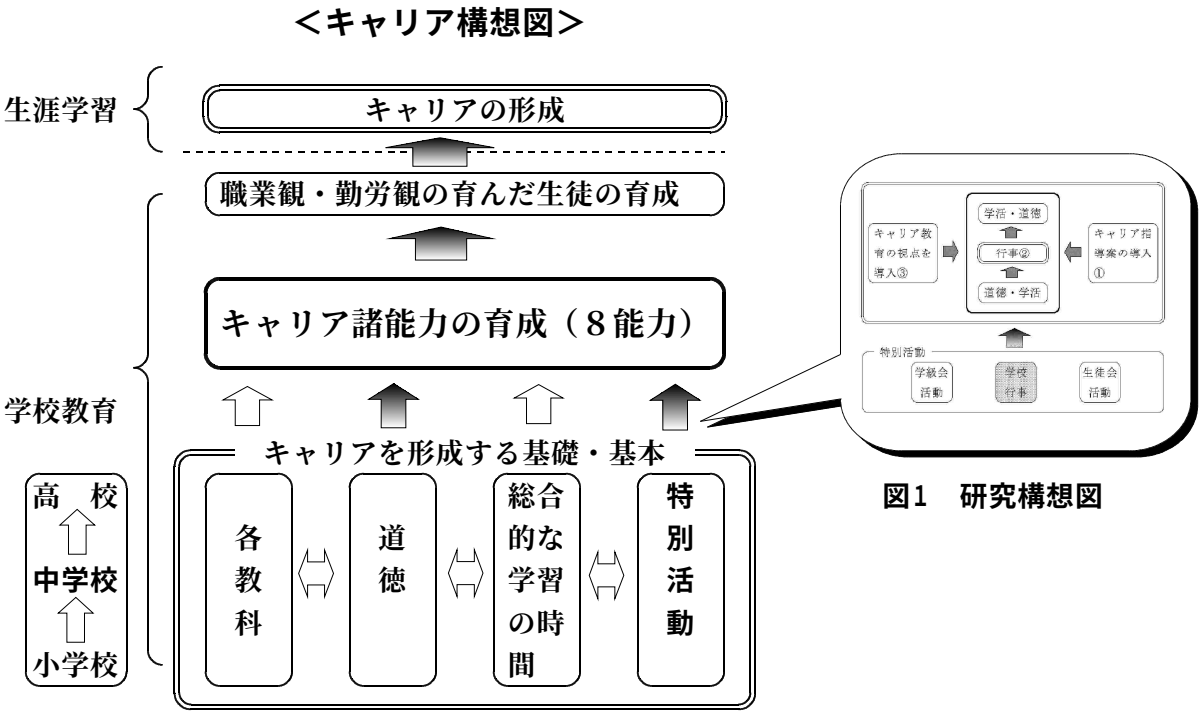


図1　研究構想図

Ⅵ　研究の計画

1　研究計画

学校行事を活用して、キャリア諸能力を育成するために、キャリア指導案に基づいて行事を行うことの有効性を明らかにすることを目的として実践する。現在の社会や学校教育の課題を解決するためにはキャリア諸能力を育成することが求められているが、その中でもキャリア教育において人間関係づくり、コミュニケーション能力の育成が叫ばれてきている。そこで、具体的にキャリア諸能力の８つの中の１つであるコミュニケーション能力を、学校行事である合唱コンクールを通して育成しようと考えた。キャリア指導案の作成においては、行事の事前と事後に道徳と学活をセットにして、コミュニケーション能力育成のねらいをもたせたキャリア指導案を作成した。具体例は表６、７、８である。実践は中学校で行い、対象は２学年の生徒（198名）と２年担任（５名）とした。計画は次の表３の通りである。

表3　実践計画

実施期間　　平成16年９月27日～11月１日
（１）事前の指導：道徳（１時間)、学活（１時間）
（２）学校行事　：合唱コンクール（６時間：10月21日実施）
（３）事後の指導：学活（１時間)、道徳（１時間）

2　検証計画

以下の表４、５の通りに計画を立て、検証を進める。

(1)見通し１：学校行事を活用すれば、学校教育にキャリア教育の導入を図ることができる。

表4　検証計画1

	期　日	対象者	検証内容	方　法
1	プログラム終了後	担任	導入の成果の有無	アンケート調査
2	プログラム実施後随時	２学年職員	導入の有効性	観察、会話

(2)見通し２：キャリア指導案を作成し、学校行事を実施すれば、キャリア諸能力を育成できる。

表5　検証計画2

	期　日	対象者	検証内容	方　法
1	プログラム実施前後	抽出生徒	実施後の生徒の変容	担任へのアンケート
2	プログラム実施毎	抽出生徒	授業毎の生徒の変容	担任アンケート、ワークシート、日常観察
3	プログラム実施後随時	２学年職員	学年・学級の変容	観察、会話、聞き取り調査

Ⅶ　実践と検証

1　実践の概要

キャリア諸能力の育成を目指して、事前の道徳と学活では意欲や態度を高めさせ、事後の道徳と学活では体験を通しての意識や態度の定着を図れるように工夫した。

コミュニケーション能力を育成するプログラムの実践概要について次のように考えている。多様な集団・組織の中で、豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力を、本研究では「コミュニケーション能力」ととらえることにした。そして、この能力は合唱コンクールを活用して育成することができるのではないかと考えた。合唱は歌を通して心を通い合わせるため、人間関係を築くには最適である。その経験を通してコミュニケーションの取り方

や方法を身に付けることができるとともに、相手の心や立場を考えることができるようになり、思いやりや支え合う気持ちが育くまれると考えた。合唱コンクールを活用して他の異なる能力も育成できると考えられるが、いずれのねらいにおいても系統的なプログラムを作成していくことが重要である。

今回の「コミュニケーション能力」の育成では、事前の指導で「道徳：集団生活の向上」「学活：合唱コンクールを成功させよう」を通して積極的に人間関係を築こうとする意識を育み、事後の指導では、行事「合唱コンクール」で培った支え合い（団結力）を基に、「学活：異性への理解」「道徳：人間愛、思いやり」を通して豊かな人間関係を築いていこうとする意識の定着を図る。

2　キャリア指導案の作成

キャリア指導案の形式を次の３部構成と考えた。以下はその実践例である。

(1) 指導計画：各能力を育成するためのプログラム

(2) 指導略案：簡単なプログラムの展開例が載っている指導案

(3) 指導細案：１時間毎（道徳、学活、行事）の展開例が示されている指導案

コミュニケーション能力を表２の具体的な能力・態度としてとらえ、この能力を合唱コンクールを通して身に付けさせようとプログラム化したキャリア指導案を作成した。このプログラムのねらいは、諸能力を育成した生徒像に向かってどのように生徒を育成するかを表６の通りにとらえた。事前の道徳「集団生活の向上」と学活「合唱コンクールを成功させよう」を通して人間関係の大切さを理解し、積極的に人間関係を築こうとする意識を育成しようとした。事後の道徳と学活では、体験したことを基に豊かな人間関係を築いていこうとする意識を定着させようと考え、「異性への理解」「人間愛」を計画した。それぞれの授業において、キャリア教育の視点に立って授業を行った。

表6　キャリア指導案(1)

キャリア指導案（1）　　コミュニケーション能力（Ⅰ－２：合唱コンクール・２年）

「コミュニケーション能力」のとらえ方
①他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築くこうとする。
②人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルの基礎を習得する。
③リーダーとフォロアーの立場を理解し、チームを組んで互いに支え合いながら仕事をする。

	事前の指導		行事指導	事後の指導	
時間	道　徳（1）	学　活（1）	学校行事（6）	学　活（1）	道　徳（1）
教材・資料名	○集団生活の向上 ４－（1） 「私の存在」 道しるべ２　（正進社）	○合唱コンクールを成功させよう 活動内容（1）	○合唱コンクール	○異性への理解 活動内容（2）	○ 人間愛、思いやり ２－（2） 「受話器の向こうは」 中学生の新しい道２（教出）
ねらい	**合唱コンクールに向け、グループやクラスで気持ちよい人間関係を築こうとする意欲をもつ。**	**合唱コンクール成功のためにはクラスの協力が必要であることに気づく。**	**練習の成果を発揮し、支え合い（団結力）を体験する。**	**コンクールの成果を生かし、今後の生活に豊かな人間関係を活用する。**	**人間関係作りの発展として、自己の生き方を見つめることができる。**
能力	①	②③	③	①②	①②③
プログラムのねらい	○合唱練習の計画を進んで立てたり、練習したりする活動を通して、互いに支え合いながら活動していることに気づかせ、相手の気持ちを考えることができるとともに、誰とでも進んで話し合いができる生徒を育てる。				

コミュニケーション能力の育成

表7　キャリア指導案(2)

キャリア指導案（2）　　（例）コミュニケーション能力

1　題材名　　合唱コンクール：　２年　（キャリア教育の視点　Ⅰ－２　）

2　ねらい

２年生のこの時期は、みんなで遊んだり、地域の行事に参加したりする経験が日常生活の中で非常に少ない。そのため「人と上手く話せない」「友だちができない」「友だちの中に溶け込んでいくことができない」など自己表現が苦手だったり、相手のことが理解できず、他者に配慮できなかったりといった生徒が多く、積極的によりよい人間関係を築いていこうとしている生徒が少ない。

そこで、合唱コンクールに向けたクラスの取組を人間関係づくりに応用し、いろいろな人がいろいろな立場で互いに支え合いながら頑張っていることを生徒に気づかせたい。その活動を通してコミュニケーションスキルを習得させ、コミュニケーション能力の育成を図る。

3　指導計画　　全１０時間計画

段　階	配当時間	配　当　授　業　（時間）
行事のはじめ	2	学活（1）道徳（1）
本行事	6	合唱コンクール（6）
行事のまとめ	2	学活（1）道徳（1）

4　行事の展開

（1）行事のはじめ

ねらい　人間関係の大切さを理解し、積極的に人間関係を築こうとする意識を高める。

段階	時間	活動様	生徒の活動	ねらい	キャリア教育の視点・留意点
活動の開始	50分	道徳	**1　合唱コンクールに向け、グループやクラスで気持ちよい人間関係を築こうとする意欲をもつ。** （1）みんなで喜び合えた経験を発表し合う。 （2）集団生活を向上させることの大切さを資料を読んで、考える。 （3）今までの自分を振り返りよりよい集団について考える。 （4）教師の説話	・集団の一員としての自覚をもち、協力し合ってよりよい集団にしていこうとする意欲を育てる。 読み物資料「私の存在」4－(1)　道しるべ（正進社２）	・導入で１年生の時の合唱コンクールを話題にし、何を学んだか、思い出させる。 **・話し合いを通して、一人一人の存在や協力し合うことの大切さに気づかせる。** ・自己を振り返らせながら、これからの合唱コンクールに向けて意欲化を図らせる。
活動の展開	50分	学級活動	**2　合唱コンクール成功のためにはクラスの協力が必要であることに気づく。** （1）文化祭（学級）のスローガン達成に向け自分は何ができるか、考え発表する。 （2）本時のめあてを知る。 ①活動１ 目標達成に向けた計　画や方法を考える活動 ②活動２ 考えたことを確認する活動 （3）全員で合唱する。	・集団の一員としての役割を考えた活動から、合唱コンクールに向けた協力的で具体的な取組方法を考えさせる。 [合唱コンクールへの役割] 活動内容（１）	・昨年度の金賞を取ったクラスの生徒に、何が大切だったかを質問しておく。 ・道徳の授業を想起させ、コンクールに向けた意識化を図り、自分の役割や行動を考えさせる。 **・学級や個人での立場を考えさせ、目標達成のためには、協力、人間関係を築くことが大切であることを気づかせる。** ・取組方法への意気込みや雰囲気を作る。
活動のまとめ	10分	短学活	**3　練習の成果から、人間関係の大切さを理解する。** ・合唱コンクールへの意気込みを聞き意欲を高め、みんなで歌を歌う。	・みんなと一緒に気持ちを込めて歌おうという意欲を高める。	・友だちを信頼することが成功の秘訣だと気づかせる。 ・合唱コンクールのスローガンやクラスの目標を再確認させ、意欲付けを図らせる。

（2）本行事

ねらい　相手の立場を理解し、互いに支え合うことを体験する。

段階	時間	活動様	生徒の活動	ねらい	キャリア教育の視点・留意点
活動の開始	6時間	閉会式	**1　練習の成果を発表し、支え合いを体験する。** （1）朝の会をする。 スローガン達成に向け、お互いが精一杯歌おうと意欲を高める。	・意欲が実践に結びつくよう、各担当に役割を果たさせる。	・クラス、みんな、自分のために合唱し充実感を味わう。 ・朝、係や各自の役割をしっかり果たし、目標を達成させようと話しておく。
活動の展開		活動	（2）活動１（合唱） 目標達成に向けて、クラスのみんな力心を１つにして歌おうという気持ちで取り組む。	・自分、パート、全体のことを考え、互いに支え合いながら合唱させる。	**・ステージに上がる前などに、相手がクラスの生徒と心と心のふれあいをして、お互いが支えあっていることに気づかせる。**
活動のまとめ		閉会式	（3）帰りの会をする。 今日までのことを思い出し、今後の生活に生かそうと振り返る。	・合唱コンクールを通して、充実感を体験させる。	・よりよい歌声を創り上げるには、支え合いが大切であったことにふれる。

（3）行事のまとめ

ねらい　豊かな人間関係を築いていこうとする意識を定着させる。

段階	時間	活動様	生徒の活動	ねらい	キャリア教育の視点・留意点
活動の開始	50分	学級活動	**1　コンクールの成果を生かし、今後の生活に豊かな人間関係を活用する。** （1）合唱コンクールの反省・評価をし、今後の生活について考える。 （2）本時のめあてを知る。 ①活動１ 男女のよさを合唱練習やアンケート結果を参考にして、話し合う。 ②活動２ 男女のよさを社会に生かす方法を合唱のことから思い出し、話し合う。 （3）今日の学習を振り返る。	・男女の望ましい人間関係の在り方を理解させ、望ましい学級集団を作り上げようとする。 [活性への意識] 活動内容（２）	・アンケートの集計結果やコンクールの生徒の感想を紹介する。 **・コンクール前後で、相手のことを考えることができるようになったことを生徒作文などを参考に話す。** ・コンクールで体験したことをもとに話し合わせる。 ・クラスの雰囲気を生かし、成果の継続化・定着を図るようにさせる。
活動の展開	50分	道徳	**2　人間関係作りの発展として考え、自己の生き方を見つめる時間とする。** （1）よりよい人間関係とは、どんな関係か考える。 （2）資料を読んで、主人公の気持ちを考える。 （3）今までを振り返り、他の人の思いやりに満ちた言動に接した経験と気持ちを発表する。 （4）教師の説話を聞く。	・他の人の心を自分の心として感じ取り、温かな心をもって生きようとする心情を育てる。 読み物資料（「道徳のあゆみ」）2－(2)　**幸せを求める心**（文教社）	・合唱コンクールの行事の最後として心情を育て、意識の定着を図る。 **・相手の温かな心を感じることができない自分や主人公の心の変容に気づかせる。** ・合唱という体験活動を基に、考えさせる。 ・本行事のまとめとして、自分の生活の在り方について考えさせ、今後実践できるよう意欲を高めさせたい。
活動のまとめ	10分	短学活	**3　行事全体（合唱）を通してコミュニケーション能力の必要性に気づく。** ・達成状況を会話や作文等を通して、評価する。	・この体験をこれからの生活に生かすように意識を高めさせる。	・行事で培われた成果を認め、学校生活に生かせるようにさせる。 ・観察やワークシート等を通して達成状況を確認する。

5　評価

○自分や周りの人の立場を考えながら、互いに支え合ったり、協力しあったりできたか。[観察、ワークシート]

表8　キャリア指導案(3)

キャリア指導案（３）　　コミュニケーション能力（１－２）

＜事前指導：その２の１＞

○道徳展開例

1　主題名　　集団生活での協力　　4－（1）　集団生活の向上

2　資　料　　「私の存在」　　道しるべ　2　（正進社）

3　ねらい

○集団の一員としての自覚をもち、協力し合ってよりよい集団にしていこうとする意欲を育てる。

進路の視点

1　合唱コンクールに向け、気持ちのよい人間関係を築こうとする意識を育てる。

4　展　開　　**＊太字はキャリア教育の視点**

段階	生徒の活動や主な発問	予想する生徒の反応	支援・留意点
導入5分	1　みんなで喜び合えた経験を発表し合う。 今まで、みんなで喜び合えた行事に、どんなものがありましたか。	・中体連新人戦 ・合唱コンクール ・妙高自然教室の行事 ・球技大会 ・マラソン大会　等	・導入なので、話題に触れる程度にする。 ・新人戦や１年生の時の合唱コンクール等を話題にする
展開40分	2　資料を読み、考える。 ①夏休みでの、練習態度はどうだったか。 ②けがをしたとき、どんな気持ちだったか。 ③演奏会が終わっても、なぜみんなのように喜べなかったのか。 ④あの言葉の本当の意味がわかったとあるがどのようなことか。	・いやいややっていた。 ・人数がそろわないのでいやになっていた。 ・やすめるのでうれしかった。 ・真剣に練習に出ていなかったから ・演奏会を成功させようという意識が低かった ・誰か一人でも欠けてしまっては成功しない。 ・何事にも一生懸命に取り組むことの大切さ。	・①②は補助的な発問とし、③④を中心に考えさせる。 ・誰でもよくあることなので共感的に考えさせたい。 ・うれしかった気持ちと、苦しくなった気持ちの両方を考えさせたい。 ・演奏会成功に向けて精一杯取り組めていなかった自分に気づいたことを理解させたい。 **・話し合いを通して、一人一人の存在や協力し合うことの大切さに気づかせたい。**
	3　自分を振り返る。 よりよいクラスを作るために、どうしたらいいか考えましょう。	・みんなのよいところを認め合う。 ・チームワークを大切にする。 ・協力し合う。	・自己を振り返らせながら、これからの合唱コンクールに向けての意欲化を図る。 ・行事を通して、クラス作りをしていくことにふれる。
終末5分	4　教師の説話を聞く。		・教師の体験談を話し、余韻を残し終わる。

5　評　価　　○合唱コンクールに向け、気持ちのよい人間関係を築こうとする意識が育ったか。　[観察、ワークシート]

6　事後指導　　○自分自身だけでなく、全体を考え、合唱コンクールの練習ができるようになったか、担任も練習に参加し、励ましの言葉かけをする。

道徳ワークシート（私の存在）

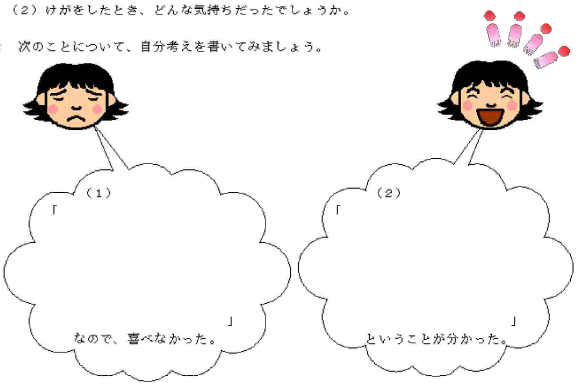
２年　　組　　番　名前（　　）

1　資料を読んで、次のことについて考えてみましょう。

（1）夏休みでの洋子の練習態度はどうでしたか。

（2）けがをしたとき、どんな気持ちだったでしょうか。

2　次のことについて、自分考えを書いてみましょう。



3　今までの自分を振り返り、よりよいクラスを作るために、どうしたらいいでしょうか。

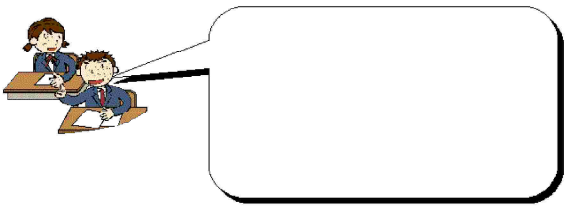


表７は、コミュニケーション能力を育成するために、合唱コンクールと道徳・学活を盛り込んだ指導略案である。

「ねらい」はこの一連のプログラムで培いたい能力を簡単に表したものである。

「行事の展開」では、行事の前後に事前の指導及び事後の指導を盛り込んだ点が特徴であり、それぞれにねらいをもたせている。道徳や学活の価値項目や題材を決定する際には、コミュニケーション能力を培うためにどのような順序で従業の計画を立てれば、児童生徒に必要な能力を確実に身に付けることができるか考えて選定した。この場合、キャリア教育の視点を展開に盛り込んだ授業を構想した。

「事前の指導」においては道徳と学活を通して行事のねらいの達成やキャリア諸能力の育成がスムースにできるように計画し、「事後の指導」においては実践力が身に付くように意識の定着を図ろうと計画した。最後のまとめにおいては、成果と評価を自分でできるように振り返りをさせるとともに、次の行事の事前指導に生かせるように短学活を通して評価をさせる。

表８は、キャリア教育の視点を盛り込んだ展開部分の指導細案の一例になっている。ここでは、道徳、学活、行事を通してキャリア諸能力の育成を図ることができるように視点を設けたり、ワークシートや資料等も準備した。

3　検証

(1)　キャリア教育の目指すキャリア諸能力を育成するにあたり学校行事を活用したことで、学校教育にキャリア教育を導入することができたか。　（見通し１）

表９は、キャリア指導案を活用した先生方のアンケートをまとめたものである。今まで先生方は行事に際し、一貫したねらいのもとに指導計画を立て系統的に実施した経験がなく、そのため興味を持って熱心に取組むことができ、キャリア指導案のねらいにそった実践ができた。特にキャリア指導案についての評価は、行事、道徳、学活をセットにした指導案自体が、今までになかったものでもあり、便利であると評価された。また、キャリア指導案を理解すると同時に、キャリア教育の視点にそった実践を行うことに対しても抵抗感なく受け入れられた。結果的に、教師自身の指導力の向上にもつながり、効果的なキャリア指導案であったと評価され、学校行事を活用して学校教育にキャリア教育の導入を図ることができた。しかし改善点として、事前と事後の道徳・学活の計４時間に負担を感じていることから、普段通りの授業にキャリア教育の視点を組み合わせるという意識改善を図り、理解を深める必要があると考えられる。

また、職員の感想や日常会話の中からは、キャリア教育について知っていた職員はほとんどいなかったので、このキャリア教育の導入に関しての検証は効果的であった。特に、学校行事

表9　職員に対するアンケート結果

	形式について	役立ったことについて	ねらいの達成について
よかったところ	・心構えを段階的に意識させられた。 ・一貫したテーマでわかりやすかった。 ・生徒達が作っていく活動がよかった。 ・内容が盛りだくさんだった。	・このような指導案があると便利だった。 ・ねらいがあって、わかりやすかった。 ・体験と結びつけることができよかった。 ・道徳・学活を組み込んだのがよかった。	・資料が実態にそった内容、価値であった。 ・男女で話し合う機会が増えた。 ・自分の役割を自覚し、団結して取り組めた。 ・生徒はコミュニケーションの大切さに気づいた。
改善点	・能力を育てる時間がもっと欲しかった。 ・授業と授業の間があいてしまった。	・評価や改善があるともっといい。 ・現状に合わせた活用方法を工夫したい。 ・ワークシートの工夫が欲しい。	・教師自身の指導力の向上が必要だと痛感した。 ・コミュニケーションスキルの習得がまだまだ。 ・進路の視点をしっかりもって取り組んでいきたい。

ということで学年の職員全員が共通して動けること、共通のねらいをもって教育に当たれることが導入のきっかけを作るには有効であった。さらに、毎週行われる学年会議を活用し、そこでの共通理解を図ることで導入には効果的であった。さらに、行事を行う際の事前や事後の打ち合わせや準備などにおいても、担任同士や副担任、主任等の協力の下、共通理解を図りながらプログラムを進めることができ、スムーズに導入を図ることができていた。特に、学校行事という全ての職員に共通にかかわる教育活動なため、共通理解が図りやすいという利点もあったようである。職員においても、日常の会話の中でも行事を通してキャリア教育の導入を図ろうという意識が、プログラムが進むにつれて高くなるとともに、抵抗感なく受け入れられていた。

＜考察＞

キャリア指導案（１）を作成した後、授業をするにあたって展開部分があると便利だということを考慮し、また誰でもできることを考え、指導案を（１）～（３）の３通り作成した。これらは、各学校の実態に応じてアレンジする必要がある。基本的には、キャリア諸能力を育成するために展開でキャリア教育の視点を意識した発問や支援を取り入れ、育成する能力を明確にしたことで、キャリア教育の導入がスムーズに行われた。

キャリア指導案についてでは、今までなかった指導案に基づいて授業を行うため、担任とすれば効率はよいが、各クラスの生徒の実態が違うことを考えれば、多少の修正や変更をすることが望ましい。キャリア指導案の作成時には、生徒の実態を考慮した指導案が必要だと考える。育成する能力は同じでも、生徒の実態により指導方法の工夫を図ることも大切であるが、このことは職員の連携や協力体制等で容易に克服することができる。

ねらいの達成では、担任の感想から、「男女で話し合う機会が増えた」「自分の役割を自覚し、団結して取り組めた」とあるが、生徒のアンケート調査から考えると、まだまだ不十分である。今後の課題として、題材や資料は計画的・系統的に作成・準備する必要があると考える。

職員の観察を通して、キャリア教育の導入ではまず、職員に理解してもらうことが大切である。次に、同じ歩調での実施だと考えているが、今回では、毎週開かれている学年会を活用し、学年主任の協力の下スムーズに職員への理解はできた。また、先生方においても、研究に前向きであり、協力的であったため２年の職員全員が同じ歩調で進めることができた。

以上のことからキャリア教育を学校教育に導入するにあたり、学校行事を活用することが有効であったといえる。

(2)　キャリア指導案を作成し、道徳、学活を盛り込んで学校行事を実施したことで、キャリア諸能力を効果的に育成することができたか。　（見通し２）

①　担任の分析から

表10は、担任から見た抽出生徒の事前と事後の変容の様子をまとめたものである。

Ａ男はこの行事の取組を通して、他人を思いやることができたり、立場や役割を理解し進んで活動していたなどその効果が十分に表れていたと担任は分析している。実施前までわがままで、掃除など手を抜くＡ男が、楽しみながら取り組めるようになったり、係や当番など積極的になって、表８のように他者に配慮できるようになった。また、指揮者としての立場が理解でき、リーダーとしての自覚をもつことができるようにもなった。

Ｂ女においても、自分の立場や役割を自覚し、今までは消極的であったが、今回の行事を通して周りへの配慮ができるようになったり、積極的に友だち関係を築いたりすることができるようになった。さらに、リーダーとフォロアーの立場を理解し、合唱練習では班になって、チームを組もうと積極的に呼びかけることができるようになった。

表10　抽出生徒のプログラム実施後の変容

	事前の生徒の実態	実施後の生徒の変容
A男	・わがままなところが多く、礼儀をわきまえなく、言葉つかいや態度がよくない。 ・責任感はあまりなく、そうじは手を抜くことがある。 ・合唱練習では、とても熱心に取り組んでいる。	・係の仕事や掃除を楽しみながらよく取り組めている。 ・興味のあることが増えたためか、いろいろなことに積極的になった。 ・合唱練習をしているとき、相手を思いやる発言があった。 ・指揮者としてはしゃいでしまう場面もあったが、アドバイザーの自覚が出てきた。
B女	・決められた仕事はきちんとやり、責任感は強い。 ・合唱練習では、周囲の友だちと楽しそうに取り組んでいるが、自分からクラスを動かすというより、求められたら意見を言ったり行動したりすることが多い。	・自分だけやり遂げるのではなく、周りに働きかけをして、最後までしっかり物事に取り組む姿勢が見られるようになった。 ・以前より、積極的に意見を出すようになり、「一緒に頑張ろうね」などと、周囲に声をかけられることが多くなった。 ・女声パートに声をかけ、昼休みにパート練習をするきっかけを作った。

表11　抽出生徒の授業や行事の様子

	事前の指導		学校行事	事後の指導	
	道　徳１	学　活１	合唱コンクール	学　活２	道　徳２
ねらい	気持ちよい人間関係を築こうという意欲をもつ。	クラスの協力の必要性に気づく。	練習の成果を発揮し支え合いを（団結力）体験する。	今後の生活に豊かな人間関係を活用する。	人間関係作りの発展として、自己の生き方を見つめる。
A男の感想	・よりよい集団とは一人一人がみんなに注意できる、明るいクラスといっている。	・金賞を目指し、大きな声で頑張る。合唱コンクールに向けた話し合いが協力してできた。	・みんなで心を１つにして歌えて、金賞だなんてうれしいです。合唱から団結することを学んだ。	・男女が協力し合い、素晴らしい学級集団には、何事も全力で取り組むことが必要だと気づいた。	・文句を言いに行った自分がばかだった。こんなふうに思ってたんだ。信頼が大事だと思った。
授業の様子	観点が少しずれてしまっていた。	本人のやる気はでていたが本質はつかめていなかった。	相手を気遣う言い方ができ、ねらいが達成できた。	男女のことよりも個人的な面に視点がいっていた。	信頼が大事だということに気づけた様子である。
B女の感想	・集団生活はみんなが協力し合い一生懸命に取り組むことが大切だと知った。	・大きな声で歌い、みんなと協力してきちんと歌いきる。話し合いはしっかり考えられた。	・みんなで協力すれば１つのものを完成させることができることを学んだ。コンクールに感動した。	・さらに素晴らしい集団にするには、気楽に話す、接することが必要だと考えている。	・人のことをすぐに疑ったりしてはいけない。どんな人にも優しさはあるんだなあと思った。
授業の様子	ねらいをきちんと考えることができていた。	積極的に働きかけて、合唱を盛り上げようと頑張った。	最後の最後までパート練習に取り組み、頑張っていた。	クラスの今後について前向きに考えることができた。	人間関係の考えはできていた。思いやりまでは今一歩。

②　抽出生徒の授業記録から

表11は、抽出生徒の取組の様子を授業毎にまとめたものである。ねらいは、コミュニケーション能力を育成するための視点である。次がワークシートのA男とB女の授業での感想であり、最後に担任から見た抽出生徒の授業中の様子、観察である。

このことからA男は、このプログラムにより合唱コンクールに向けての関心・意欲については十分に高めることができていたといえる。特に、金賞を目指して、合唱コンクールを盛り上げようという意識は高まったが、何のために今みんなが頑張っているのか、「金」をとるためでなく、そのねらいを考えられるようになるとさらによかった。しかし、コンクール当日では、友達を思う気持ちが表れたり、互いに支え合いながら取り組むことができたりした。この成果を事後の指導に生かすことができたかを考えると、心情や意欲面では向上が見られたが、今後の生活にどのように生かすか、体験を次の授業や行事にどのように生かすかが、課題である。

B女は、合唱練習では友だちと楽しそうに取り組むことはできたが、求められたら意見を言ったり行動したりすることの多かったB女が、合唱コンクールに向けて意欲や態度が育ち、みんなをまとめるなどの行動力が高まるまでになっていた。また、表１０の通り、コミュニケーション能力を育成するというねらいが行事によって達成でき、その後の学活や道徳でも体験したことをもとにして人間関係を築いていこうという意識を定着することができていた。

③　職員による観察、聞き取りの結果から

２年の職員に授業毎やプログラムの実施前後に聞いた感想や会話、聞き取りなどを通して、コミュニケーション能力を生徒に育成できたかを調査してみた。

ほとんどの生徒は友だちと話はするが決まった生徒と話をすることが多く、誰とでも気楽に話し、友だちと交流を深めようとしている生徒は少ない。また、周りの人の立場を考えて行動できている生徒は少なくなっており、相手のことを考えて行動することが苦手な生徒が多い。このことは、自分から進んで友達を作ろうとする積極的な気持ちが身に付いていないことを意味し、仲良しの友達とは話をするが、交友関係や人間関係づくりが希薄であると分析している。

このような実態の生徒がこのプログラムの実践を通して、クラス全体の雰囲気においては、人間関係を作ろうという関心・意欲が次第に高まり、学校生活の実践につなげることができるようになっていった生徒が多くなった。特に、係や役割を与えられた生徒に関しては、道徳や学活の中での自覚が高まり、積極的に人間関係を築こうとしていた場面が多く見られた。行事実施後の学活や道徳においては、合唱コンクールで身に付けた人間関係の自信や積極性から意欲的になった生徒がでてきていた。特に、心を一つにする行事を活用することで、今までやりたくてもできなかったことができるようになり、それが生徒に自信となり、学校生活に反映された生徒が以前より増えたといっていた。

このように合唱コンクールの行事を通してコミュニケーション能力の育成を図るプログラムを実施したが、２年生全体の中では、コミュニケーションに対する意識が段階的に高まってきており、特に合唱練習に対する取組方に大きな変容が見られた。これは、友だちとの関わりや合唱練習を通して、クラスの和や意欲が高まったと考えることができ、合唱コンクールという行事や道徳・学活を組み合わせることが有効に働き、目指す能力を育成することができたと考えられる。しかし、道徳や学活の１時間の授業においては気持ちや心の変容は表れやすいが、性格や行動については一朝一夕に変容するのは難しいと考えられる。そこで、１つの行事だけでなく、発達段階で育成させるべき諸能力を計画的に立て、段階的に向上させることが大切だと考える。また、いろいろな行事と他教科との連携を図りながら、時間をかけてキャリア諸能力を身に付けさせる必要があると考える。

＜考察＞

抽出生徒の検証から、合唱コンクールを活用して、コミュニケーション能力を育成することは十分可能であるといえる。A男においては、話し合いの司会者になったり、合唱の指揮者になったりしたことから自己中心的な言動がなくなり、クラスをまとめることの難しさを学び、気持ちのよい人間関係を作ろうと苦労していた。合唱コンクール当日では、不登校の友だちへの配慮ができるようになったり、合唱の並び順のトラブルについても相手を傷つけない言い方を考えることができていた。B女についても、生徒会本部の仕事もあり忙しそうであったが、周りの友だちに対しても「頑張ろうね」という言葉かけをすることができるようになっていた。また、コンクール当日でも最後の最後まで友だちと協力し合いながら練習をして、少しでもいい歌にしようと頑張ることができていた。事後の学活や道徳においても、授業のねらいについては十分達成していたが、体験したことを基にして豊かな人間関係を築いていこうとする意識を定着させることが今後の課題である。職員の観察や感想から、行事の体験活動や事前や事後のプログラムを実施すれば、諸能力を育成するには効果はあるといっていた。また、特別に新しいことをするのではなく、今までの授業と変わらず、ただ諸能力育成に向けたプログラムを実践することだとわかり、どの学校においても実施することが可能であり、この行事実施後、早速自分たちで育成プログラムを作成して、行事を実施しようと学年会で提案していた。

Ⅷ　研究のまとめと今後の課題

1　研究のまとめ

合唱コンクールをキャリア指導案にそって実施することで、諸能力育成のねらいが明確になり、実践しやすかったという担任の意見が見られたことから、コミュニケーション能力の育成に関わる道徳と学活のつながりを教師自身が理解できたと考える。また、授業が実施しやすく、生徒の意識もねらいにそって高まることがわかった。このことから、学校行事にキャリア教育の視点を盛り込み、学校行事・道徳・学活を系統的・計画的に盛り込んだキャリア指導案を作成することは、諸能力育成に効果的であり、キャリア指導案の有効性を明らかにすることができた。ねらいを他のキャリア諸能力に置いた場合にも、その育成に十分な効果があると考えられる。また、この実践を通して、生徒が身に付けるべきキャリアを発達段階に応じてプログラム化する見通しをもつことができた。以上のことから、キャリア教育の導入にあたり、学校行事を活用し、道徳・学活を盛り込んだキャリア指導案を作成し、実施すれば、目指すキャリア諸能力を育成することができることが実証できたと考える。

2　今後の課題

各学校においてキャリア指導案が作成され、実践されるように啓発することで、キャリア教育を各学校に普及させたい。本研究は、コミュニケーション能力に絞って、実践及び検証を行ったが、他の諸能力にもこのキャリア指導案を応用することができると考える。そこでこの成果を生かして他のキャリア指導案を作成し、発信していきたい。行事を中心とした実践なので、学校や学年の意識が高まり、より効果を発揮することができると考える。また、キャリア検討委員会などの組織を作り、キャリア教育をスムーズに導入することができると考えている。

今後は、キャリア形成のための発達課題と諸能力育成に関する順序性や系統性の明確化を図るとともに、発達課題の明確化と学校教育（行事、各教科、道徳、特活、総合）との関連を図りながらキャリア教育の導入を進める必要がある。そのためには、小・中・高の連携を図るとともに、３年間で計画的・系統的に実施していくことが大きな課題である。またキャリア教育は、学校行事だけではなく学校教育における全ての学習や活動の中において、子ども一人一人のキャリア発達を支援するという視点を盛り込むことが重要な視点であり「望ましい職業観・勤労観を育んだ生徒」を育成するためにも、今後の学校経営や進路指導における課題である。

【主な参考文献】

・文部省　『中学校学習指導要領（平成10年告示）総則編』(1999)
・文部省　『中学校学習指導要領（平成10年告示）特別活動編』(1999))
・文部科学省　『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議　報告書～児　童生徒一人一人の勤労観，職業観を育てるために～』(2004)
・仙﨑　武　編集　『教職研修総合特集　キャリア教育読本』　教育開発研究所(1999)
・埼玉県中学校進路指導研究会編　『進路指導を核にした学級活動の展開』(2001) 実業之日本社
・渡辺　邦雄　編集　『中学校学級活動ファクス資料集』　明治図書(1996)
・群馬大学教育学部附属中学校　年間指導計画(2003)
・渡辺　邦雄　編著　『中学校特別活動指導細案　学校行事１、２』　明治図書(1993)
・京都教育大学附属京都中学校　研究紀要(2004)
・星野　竹志　『「個性、夢」サポート』　群馬県総合教育センター(2004)
・月刊『教育委員会月報』　６月号　第一法規株式会社(2004)
・文部省　中学校『読み物資料とその利用　指導の手引き１，２，４』(1992)